



定住外国人子ども奨学金 News Letter

第 8 回 KOBE カンタービレ・コンサート開催！」

2016 年 11 月 5 日 (土)、第 8 回カンタービレ・コンサートを新長田ピフレホールにて開催しました。これは、収益を奨学金の原資にすること、外国人の子どもの課題について知る機会の少ない人たちに音楽を通じて広く知っていただくことを目的に開催しているチャリティコンサートです。

今回のコンサートは「さくら木管五重奏」の方々にお越しいただきました。歌手美空ひばりさんの代表曲「川の流れるように」や、ジブリ映画「となりのトトロ」など 4 曲からなるジブリメドレーなどを演奏していただきました。演奏はもちろんのこと、選曲や曲の合間の軽快な MC 技術がまさにプロ！とても素晴らしかったです。

コンサートの合間には、奨学生が自己紹介をしました。奨学生は、日々頑張っている部活のこと、勉強のことなどを堂々と話してくれました。当然、大勢の前で緊張している様子が見えましたが、H 実行委員長、N 委員の軽快なやり取りもあり、和やかな空気で自己紹介が行われました。

そして今回は、自己紹介だけではなく新たな試みもありました。奨学生によるギターの弾き語りです。1 人がギター兼ボーカルを担当し、残りの 3 人がそれに合わせて歌いました。曲は NHK 朝の連続テレビ小説「ごちそうさん」の主題歌、「雨のち晴レルヤ」です。奨学生たちは、大勢の前にもかかわらず堂々と歌っていました。その堂々とした歌いっぷりはとても見事でした。

今回の開催は土曜日ということで、学校行事と重なり欠席する奨学生が多かったため、事前に自己紹介 DVD を作成し休憩時間に上映しました。DVD 作成にあたっては、M さんに企画からインタビュー作成まで全てをお願いしました。多くの時間を割いて作成のご協力をいただき、同じような背景を持つ先輩として彼らの声を引き出していただけたおかげで、奨学生の頑張っている様子やいい表情を観ていただけたのではないかと思います。

最後にこの場を借りて、ご出演者の皆様、今回も司会をしていただいた Y 様、M さん、その他ご協力いただいた団体・個人のみみなさまにお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

(事務局ボランティア)

奨学生からのメッセージ

今回は、自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

K さん (9 期生)

〇年後の自分

2 年後の自分は、大学の受験勉強をしていると思います。大学に入るためには高い点数を取らないといけないので、高校では自分の志望校に受かるように勉強していきたいです。そのためにも中間テストや期末テストなどの定期テストや H 高校で行われている朝の小テストに合格することが必要です。その他にも進研模試やベネッセの G-TEC などの模擬試験、授業中の態度、提出物などにも力をいれないと志望校には合格できません。高校3年生になって困らないように1年生の時からこつこつと勉強したいと思います。

3 年後の自分は大学に入学して大学生活に慣れていると思います。大学では自分のしたい勉強ができるのでそこでたのしく勉強していきたいと思っています。

6 年後は就職活動をしていると思います。その時にくじけることのないようにメンタルを強くしていきたいです。

7 年後の自分は就職していると思います。就職先では誰よりもまじめに仕事をして誰にでも優しく接していきたいです。その年になれば自分ももう大人なので自分のことは自分でして、あいさつやゴミ拾いなどのこともできるようにしたいです。また社会での上下関係などにも気をつけ、いい大人になりたいです。

こういうふうに、〇年後の自分を考えることによって今、自分が何をしないといけないとか、何をしたらこの先役に立つかが明確に見えてきたと思います。

だからこれからの高校生活では、自分のいきたい大学にいける学力をつけ、大学生活では何があってもおれないメンタル、どこへ行っても通用する応用力、誰とも仲良くなれるコミュニケーション能力を社会人になるまでに身につけて社会人になったら自分のことをしっかりと管理できるような自立した大人になりたいです。

G さん (9 期生)

5 年後の自分、10 年後の自分

私の夢は、看護師になることです。そのために基礎学力を身につけようとがんばっています。2 年後には高校を卒業し、私が目指している看護専門学校に入学して看護の勉強をしていると思います。

私の理想としている看護師像は、ベトナム語と日本語の話せる心優しい看護師になることです。私はベトナム語の読み書きは出来ますが、日本語の難しい言い回しは苦手です。

しかし、高校で厳しく礼法の指導を受けているので、TPOに応じた対応ができるようになりました。今後も積極的に学び日本語力を高めていきたいと思っています。

また、看護師に大切な素質である、人の気持ちに寄り添い相手の望むことを想像し行動することができる人間になりたいです。

そして、5 年後の自分は、看護師の国家試験に合格し新米看護師としてスタートしていきたいです。

そして、10 年後は経験をつんでバリバリ働ける看護師になっていることでしょう。

私は内科や産婦人科や整形外科などの仕事に興味があります。その中で特に産婦人科に関心があります。なぜなら赤ちゃんが好きだからです。10 年後には産婦人科の看護師として妊婦さんや新生児のお世話をしていることでしょう。お母さんになる不安をかかえている若い妊婦さんには持っている知識と経験で安心

させて元気付けたいです。

また、生まれたばかりの赤ちゃんには、元気にスクスクと育つ様にと願いながら母子支援をしたいと思えます。

新しい命の誕生に関われることは素晴らしいことです。直接それに関われる看護師の仕事はとてもやりがいがあると思います。

自分の夢を実現し、5 年後 10 年後の自分に会うために、今しなければならぬことを精いっぱいがんばることが今の私に大切なことです。奨学金を無にしない様がんばります。

◆Gさんは、2月に開催された「兵庫県在日外国人教育研究集会」でパネリストとして登壇し、体験を話しました。(写真右から2人目)



Pさん(9期生)

言葉の力

言葉というのは、人間が存在しはじめたときからコミュニケーションを取るために使っています。そして、今でも言葉を通してコミュニケーションを取っています。

私たちの日常生活では多くの場面で言葉を使っています。何か相手に伝えたいことがあるときに言葉を使って伝えています。または、自己表現をするためにも使っています。このように私たちは当たり前のように言葉を使っています。

しかし、言葉には様々な表現の仕方があります。例えば、相手に「ありがとう」または「良くがんばりました」というような言葉で喜ばせることができます。逆に、相手を悲しい気持ちにさせるような乱暴な言葉を使うこともできます。

このように言葉には、様々な表現の方法があり、そして、相手を言葉で感動させることや人の決心を変えることもでき、または、相手を嫌な気持ちにさせることもできます。そのように言葉には力があります。

ある少年の話では、中学校に通っているとその少年のクラスメイトたちが少年に暴言を吐くようなことがありました。その暴言を言っていたクラスメイトたちは軽い気持ちで言葉を使っていたが、そのような言葉を受けた彼に心の傷ができてしまいました。そして、彼は嫌な思いをしてしまい、学校を嫌いになり、休むようになってしまったことがあります。また、ある少女は、学校で自分が嫌な名前前でクラスメイトに呼ばれたことがあります。それとは違って、クラスメイトたちが困っている同じクラスメイトにはげましの言葉、または、応援の言葉をかけるようなクラスメイトもいます。

たしかに言葉の力には悪い面もあれば、良い面もあります。しかし、実際に言葉に力があると思わない人もいます。言う言葉にはなにも力がないと思込み、他人を傷つけてしまう人が子どもだけに限らず、現在の大人たちにも多いです。

このように言葉の力を知らないと人間関係をつぶしてしまいます。だから、私たちのいう言葉に責任を持たないといけません。今の世の中で生きるためには、コミュニケーションが必要です。良いコミュニケーションを取るためには言葉の力を理解することが大切になります。このように言葉の力を理解し、正しい表現を学べばこれからの世界もよくなると思います。自分がコミュニケーションを取れることで成長していきます。そして自分だけでなく、周りの人たちと共に成長することができます。

K さん (8 期生)**1 年後の自分**

来年の 4 月に、僕は高校 3 年になります。最高学年としての自覚を持つとともに、受験生であるという自覚も持たなければいけません。勉強がすごく出来るわけでもなく、自分に自信がないせいなのか、とても不安な気持ちでいっぱいです。

僕は、今、国公立大学への入学を強く希望しています。その理由としては、やはり金銭面のことで親に負担をかけたくないと思うからです。もう 1 つの理由は、高校の先生に、「金が多い人数のゼミに入るより、少人数でアットホームなゼミに入るほうが向いている。」と言われたことです。確かに僕は、大人数で作業をやるよりは少人数で気楽にやりたいと思っていました。ですが、国公立大学に入学するとなれば、センター入試と各大学で行われる二次試験を受けなければいけません。ちょうど来年の今頃はセンター入試の過去問をたくさん解いていることでしょう。もう来年と思う反面、まだ来年のことだと思う自分がいます。来年の今頃なんて誰も分からないし、自分の進路実現に向けて本腰を入れて勉強をしなければいけないと思いました。

さらに来年は、全ての行事が最後となる年です。ここでは、最高学年としてみんなの手本となるようにすると、最後の行事なので今いるクラスの子や友達と大いに楽しんでいこうと思います。部活動も 1 つ 1 つの演奏に悔いのないよう思いっきり楽しんで吹いていけたらいいなと思っています。

この最後の高校生活を仲間と共に刺激しあい、時には励ましあい、そして良い思い出をたくさん作れるようにしたいです。勉強も、分からないところがあれば友達や先生に聞いて、苦手を無くせるようにしたいです。前もって準備をして、1 年後の入試、自分の進路実現のために精一杯、悔いのないよう頑張っていきたいと思います。

応援宜しくお願いします。

B さん (8 期生)**十年後の私へ**

十年後の私は 27 歳です。27 歳といえば、高校と大学を卒業して、社会人として大人の仲間入りをしているのではないかと思います。「27 歳の私は仕事をしっかりとしていますか?」「ニートになっていませんか?」「借金などはしていませんか?」等、聞きたいことはたくさんあります。

今の私には芥川龍之介のような、漠然とした将来の不安があります。十年後の私はどうですか。まだ不安はありますか。もしくは仕事で忙しく、そんなことを考えている余裕はないかもしれませんね。もし仕事でうまくいかず、落ち込んでいるのならば、一つアドバイスをします。誰だって落ち込むことはあります。でも、落ち込んでいるときは何も無理して立ち直ろうとしなくてもいいのです。それどころか、そんなことをすると余計に沈み込むこととなり、どうしてこんなこともできないのか、どうしてうまく立ち直れないのだろうか、やはり自分はダメなんだと、自分で自分を苦しめることにもなりかねません。そんなときは、開き直ればいいのです。「男は時々何をしてもまったく駄目という時があるのだ。そういう時、男は酒でも飲んでひっくり返ってればいいんだ」という名言があります。これは視点を変えることの大切さを述べているのではないかと思います。なので無理に立ち直ろうとする必要はありません。焦らずに気持ちを楽にして人生を楽しんでください。

ところで話は変わりますが、今の私の夢の原点にあるものはアニメです。科学や医療などに興味を持ったのは「ドラえもん」や「ブラックジャック」のおかげです。でも私が本当に就きたい仕事は何だろうと考えてみると学者や看護師ではなく漫画家だったのかなと思います。でも漫画家として生きていくのは大変ですし、下にまだ小学生の妹もいます。なので私は漫画家一筋でなくとも良いと思っています。休みの日にでも私に夢

を見させてくれた漫画、そんな漫画に携わることができたら、それだけで幸せです。

十年後の私には、後悔のないように生きてほしいです。そのためにも、今の私も日々精進します。

D さん (8 期生)

ことばの力

ことばって何だろう。私はもしそのような質問をされたら、ことばは人と人をつなぐものだと答えます。

中学校の国語の授業で、紀貫之の「仮名序」を学びました。紀貫之は、和歌は人の心を種として、いろいろな言葉の葉が繁ったようなものであって、この世に生きている人は、いろいろな物事にいそがしく接しているの、心に思うことを、見るにつけ聞くにつけ、歌に詠むのだと言っていました。私はこれを読んだ時、なんて素敵なお文章だろうと思いました。本当にそのとおりだな、とも思いました。私たち人間は、毎日いろいろなことを体験したり、見たり聞いたりして、その中でたくさんの感情が出ます。その気持ちを共有したら、記憶に残すために、人間はことばを使います。そしてことばを使って和歌やポエム、歌の歌詞をつくります。人は自分の気持ち、自分の感情をことばにしたとき、やっとその気持ちに形ができたと感じます。ことばってとても不思議です。

私は、考え事をしたり、悩んだり、モヤモヤしている時に、どこかで自分の今の感情にぴったりなことばをみつけたときは、なんだか安心して、感動します。たとえば、ラジオでたまたま流れてきた曲のサビの部分は、今自分の思っていたことにぴったり当てはまったとき、世界はこんなにも広いのに、同じように悩んでいる人がいるのだなと思いました。だから少し安心しました。

私は親のルーツの関係で、スペイン語と日本語を使います。さらに学校では、ALTの先生と話す時英語を使います。全部違う言語でそれぞれ違った特徴を持っています。でもやはりことばは「伝える」ために使い、そして「伝える」ことで、人と人をつなぐことができます。

世界中では、さまざまな争いが起きています。それは、文化の違いや宗教の違いに関係しているものが多いですが、全てがことばと関係があると思います。ことばは、上手に使うと、人と人をつなぐことができますが、下手に使うと、それが人を傷つけたり、誤解を生みだしたりします。だから、私たちは、ことばを使う時は常に相手のことも考えて、ことばを選ぶべきだと思います。きっとそうすれば、世界が少しでも平和になるのではないかと思います。

I さん (7 期生)

短くも三年、長くも三年

教室の窓の外は落ち葉で覆われ、私にとっての「最後」の冬もいよいよやってきました。

私が卒業する際には、校舎では桜が舞っているだろう。高校三年間、私は沢山のものに恵まれました。三年も通っていた高校から離れることを考えると、とてつもない虚しさを感じます。

私が高校で初めて声をかけられたのは、後に、私の大親友となった子からです。彼からは、バスケットボール部への入部に誘われました。私自身は初心者であることにすごくコンプレックスを抱えていました。チームは少人数のため、入部後はレギュラーとして活躍することにきつとなるので、私はそのことを恐れていました。しかし、彼からは一緒にバスケットボールに励み、チームを支えていこうと言われましたので、私自身も勇気を振り絞って、入部しました。が、やはり初心者であったため、基礎から練習を沢山積み上げても、結果はなかなか上手いきませんでした。初めての試合で、私は交替として出場しました。ですが、実践は練習と大きく異なっていることを肌で実感し、試合が終わっても、失望感でいっぱいでした。少しでも、チームの足を引っ張らずに、貢献したいと思っていましたが、現実にはなかなか思い通りに運ばなかったです。そんな悩みを

抱えている私を励ましてくれたのも彼でした。そして、勇気づけられた私も毎日学校に残って練習に力を入れました。そんな私の努力を見て、彼も残って練習に協力することになりました。それから、私たちは二回目の試合を迎えました。一回目の失敗を思うと少し怖かったです。試合開始前に声援もらい、私は試合だけに集中しました。試合は期待を裏切る結果になりましたが、私はチームの得点に貢献することができました。バスケットボールを続けたことは、とても困難なことでしたが、楽しく練習ができました。また、大事でかけがえのない友情も得ました。

他にも、私は高校から絵葉書の交換を始めました。バスケットボールで挫折した時に、私は大事な親友から言葉で勇気づけられたので、自分も絵葉書を書くことで、他の人を元気にすることはできないかと、書き続けました。幸いにも、私には留学している友達が沢山います。もちろん、外国に居るとホームシックにもなることも、トラブルにも直面することや落ち込むこともあります。そして、誰かに話したくなる時も沢山あると思ったので、絵葉書を通じて、色々な人と絵葉書を交換していました。落ち込んでいる状態から、また再び元気を取り戻したと聞くと、私は大いに達成感を感じました。

ここ三年間辛いことは沢山ありましたが、私は色々な人に助けをもらい、他の人を元気にすることを通して乗り越えることができました。長くも、短くも三年ですが、かけがえのない三年となりました。

S さん (7 期生)

私の考える自分の未来

将来、私は何をしているだろうか。懸命に仕事に打ち込んでいるかもしれない。新しい家族を持っているかもしれないし、まだ職に就いてさえいないかもしれない。今の私の人生を左右するものは大学受験の可否である。ここで私の未来は二分される。合格すれば第一希望の国公立大学へ進学する。不合格ならば浪人する覚悟である。浪人することは、今まで以上に母への負担を増やすことになるのでとても悩ましい話である。もし合格すれば、私は家を出て一人暮らしを始めるつもりだ。そして、アルバイトと勉学に励む毎日を過ごすことになるだろう。お金がたまれば、夢である建築士に一步でも近づけるように海外留学をして知らない世界も見ておきたい。在学中には一級建築士としての資格を取得して将来につなげていきたいと思う。四年間の大学生活の後、大学院に進学したいと思っている。今の私には大学院における知識は少ないが、大学院に進学することでより多くの知識を身につけ、自らの社会に対する視野と価値観を高めたい。同時に余裕のある毎を送るための投資であるとも考えている。厳しい道になると思うが、適度に息抜きをしながら常に向上心を持ち続ける人でありたいと思う。

大学院卒業後は自分の納得がいく職に就いて毎日を充実したものにしていきたい。三十代になれば、自分の職に慣れてきた頃であると思う。もし建築士として職に就いているのなら、世界に通用する人材になりたい。四十代になるまでには将来のことも考え、自分のことを受け入れてくれる器の大きい人と出会い、人生を共にしていければ幸いである。

最終的な目標は日中平和を象徴する「橋」をデザイン・建設することである。私は日本で生まれた中国人として中立的立場からの視点と考えを持っている。日本と中国両者をつなぐような、海を越えて国と国をつなぐような存在として活躍したいと思っている。その国その国の特有文化を尊重した、両国の要素が相乗効果を織り成す建築活動をするのが私の夢である。

自分の未来がどうなるか分からない。今、思っていること、計画していることは全く違った人生を歩んでいるかもしれない。ただ一つ思うことは、自分が納得出来るかどうかが大切だということである。生きていく中で出会う多くの人々から自分の知らない新鮮な良い刺激を受けて経験を積んでいこうと思う。

J さん (7 期生)

これからの進路について

フィリピンにいた幼い頃から、機械などがどうやって動いているか強い興味を持っていました。特に興味を持っていたのがゲーム機でした。その頃の自分は外出するより、友達とテレビゲームをすることが好きでした。

その頃は父は日本で働いていましたので一緒に過ごす時間は少なかったですが、ゲームをしたり、当時の父の趣味のパソコンで父との関係が強められたと思います。

パソコンを組み立てたり、いろんなソフトウェアの使い方などを教わって、自分の興味がより深くなりました。これをきっかけに自分からプログラミングをインターネットを使って独学し始めました。ジャバなどのプログラミング言語を使って、趣味でゲームを作っていました。

今年の春から神戸電子専門学校のITスペシャリスト学科に入学することになりました。将来幼い頃から憧れていたシステムエンジニアの職業を目指して、ITを専門的に勉強したいです。

この専門学校を選んだ主な理由は、他の学校ではあまり見られない学校全体の学科交流です。コラボレーションをしながらプロジェクトなどを進めることを重要視しています。そうすることによって、多彩なアイデアを生み出すことが可能になるからです。

この学校の設備などを有効に活用して、できる限り自分の専門的な知識を増やしながら、今のIT業界では最も要求されるアイデアを生み出す能力を高めることに励みたいです。そうするには目標として、自分の所属する学科だけでなく、他の学科の学生と良い人間関係を作ることから始めたいです。

自分がITを学ぶことを決意したのは、今まで何かに対してこれほど熱心になったことはなかったことに気付いたからです。本当にやりたいことをキャリアにすると、自分の情熱がその職に伝わって、次世代にも貢献できるようなものを創造できると思います。

これからも夢に向かって、頑張ります。